

2017年01月03日（火）【外為Lab】松田哲
タイトル：【明けまして、おめでとうございます】

本年も、なにとぞ宜しくお願い申し上げます。

さて、新しい年が始まりました。

海外市場は、今日（1月3日）からオープンしています。

日本は、まだ「正月三が日」なので、どうもそういった気分になりませんが、既に、今日（2017年1月3日）の朝から、スタートしました。

しかし、あわてたり、あせったりする必要はない、と考えています。

昨年（2016年）の後半のマーケット（外国為替市場）は、「予想外」の連続だった、と考えます。

昨年（2016年）6月の「ブレグジット（英国のEU離脱）」しかり、昨年（2016年）11月の「米国大統領選挙」しかりです。

「半分想定内・半分想定外」だったのが、「米国の金利引き上げ（ドル政策金利の引き上げ）」と考えます。

この米国の利上げに関しては、一昨年（2015年）12月に、第1回目の利上げが行われました。

「金利引き上げ局面（金利の上昇局面）」では、その利上げ幅は小さく、かつ、断続的に引き上げが実施されることが、一般的です。

だから、一昨年（2015年）12月に、第1回目の利上げが開始したのならば、昨年（2016年）は、通常ならば、複数回の引き上げが実施されるはずなのですが、実際に引き上げが行われたのは、昨年末（2016年12月）の1回だけでした。

米国が金利上昇局面に入ったこと（入っていること）は、昨年末（2016年12月）の利上げで確認できたので、その点は、「想定内」だった、と言えます。

しかし、その利上げの回数（別な言い方をすると、その利上げ幅）は、たったの1回だけ（たったの0.25%に過ぎず）で、事前の予想に比べると「想定外」だった、と言えます。

+++++

今年（2017年）のテーマに関して、
「ブレグジット（英国のEU離脱）」
「米国のトランプ新政権」
「米国の金利政策」
の3つを例示しました。

これらは、確実に「今年（2017年）のテーマ」になるはずですが、まだ、何も決まっています。

全く何も決まっていない訳ではありません。

「英国がEUを離脱すること」
「米国の新政権（トランプ政権）が始まること」
「米国が利上げを実施すること」
そういったことは、既に、事実と言って良いのでしょうか。

しかし、具体策は、何も決まっています。

あるいは、何も、発表されていない、と言うべきでしょうか？

今、巷間、言われている具体策は、全て、想像・予想の類で、何も分からないということが事実です。

だから、「今年（2017年）のテーマ」は、分かっているのですから、具体策の発表を待つ、という姿勢が正しい、と考えています。

だから、あわてたり、あせったりする必要はない、と考えている次第です。

のんびりと、スタートを切れば良い、と考えています。

今年（2017年）は、始まったばかりです。

今年も、宜しくお願い申し上げます。

+++++

（2017年01月03日東京時間15:35記述）